

研究教育業績（過去 5 年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Takizawa Y., Arakawa M., Kurita T., Nakajima T., The Influence of 4-methylimidazole on the Gastrointestinal Epithelial Cells. *J. Excipients and Food Chem.*, 12(1): (2021).
- 2) Takizawa Y., Furuno Y., Hayashi M., Effects of Polyvinylpyrrolidone (K90) on Membrane Permeation via the Transcellular Route in the Rat Jejunum. *J. Pharm. Invest.*, (2021)
- 3) Takizawa Y., Goto N., Furuya T., Hayashi M., Influence of pharmaceutical excipients on membrane transport of P-glycoprotein substrate in rat small intestine. *Eur. J. Drug Metab. Pharmacokinet.*, 45(5): 645-652 (2020).
- 4) Takizawa Y., Tobe Y., Sakamoto N., Sakamoto J., Hayashi M., Sodium Nitroprusside Enhances Absorption in the Rat Jejunum via the Transcellular Route. *J. Membr. Biol.*, 253(3), 221-228 (2020).
- 5) Takizawa Y., Aizawa Y., Furuya T., Hayashi M., Influence of Pharmaceutical Excipients on Membrane Transport via Transcellular Route in Rat Small Intestine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, 8(11), 488-496 (2019)
- 6) Takizawa Y., Tobe Y., Sakamoto N., Hayashi M., Effects of Intestinal Ischemia/Reperfusion on Organic Cation Transporters mRNA Expression Level in Rat Small Intestine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, 8(2), 44-50 (2019)
- 7) Takizawa Y., Koda D., Takahashi M., Komura Y., Kizawa M., Kurita T., Nakajima T., Influence of Non-Alcoholic Beverage on Gastrointestinal Epithelial Cells, *Sch. Acad. J. Pharm.*, 7(5), 203-207 (2018)
- 8) Takizawa Y., Sakamoto N., Tobe Y., Hayashi M., Changes in Function and Expression Level of Multidrug Resistance-Associated Protein during Intestinal Ischemia/Reperfusion, *Sch. Acad. J. Pharm.*, 7(2), 60-66 (2018).
- 9) Kishimoto H., Miyazaki K., Takizawa Y., Shirasaka Y., Inoue K., Absorption-enhancing effect of nitric oxide on the absorption of hydrophobic drugs in rat duodenum, *J. Pharm. Sci.*, 105, 729-733 (2016)

[その他]

- 1) 瀧沢裕輔、医薬品の消化管吸収の重要性に魅せられて、埼玉県薬剤師会雑誌、44(6), 16-18 (2018)

2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) Y. Takizawa, Y. Komura, Y. Nakamura, M. Sadaoka, N. Niwa, T. Kurita and T. Nakajima. Effect of mycophenolic acid on membrane permeability via paracellular route and transcellular route. 1st Asian Association of School of Pharmacy (AASP) Young Scientist Conference, (2020. 12, Online)

[国内学会]

- 1) 瀧沢裕輔、高橋優斗、宮部耕佑、宮田美生、栗田拓朗、中島孝則、ミコフェノール酸モフェチルの溶出性に対する併用薬の影響、日本薬学会第 141 年会 (2021 年 3 月、広島)
- 2) 大戸智絵、栗田拓朗、瀧沢裕輔、中島孝則、一包化したアトルバスタチン錠ならびにアトーゼット配合錠の光安定性について、日本薬学会第 141 年会 (2021 年 3 月、広島)
- 3) 菊池 蘭、伊藤創馬、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、一包化したベルソムラ錠の保存方法に関する検討、日本薬学会第 140 年会 (2020 年 3 月、京都)
- 4) 栗田拓朗、大橋拓斗、竹内勇樹、目時楓大、外山雅子、平岡優希、瀧沢裕輔、中島孝則、添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価(第 2 報)、日本薬学会第 140 年会 (2020 年 3 月、京都)
- 5) 中島孝則、菊池 蘭、伊藤創馬、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、分包したベルソムラ[®]錠の保存安定性について、第 29 回日本医療薬学会年会 (2019 年 11 月、福岡)
- 6) 菊池 蘭、伊藤創馬、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、ベルソムラ[®]錠の一包化に向けた保存条件の検討、埼玉医療薬学懇話会第 39 回学術研究講演会 (2019 年 7 月、さいたま)
- 7) 瀧沢裕輔、高橋優斗、宮部耕佑、栗田拓朗、中島孝則、経口投与製剤の溶出性および膜透過性に対する併用薬の影響～ミコフェノール酸モフェチルを用いた検討～、日本薬学会第 139 年会 (2019 年 3 月、千葉)
- 8) 伊藤創馬、大戸智絵、菊池 蘭、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、ベルソムラ[®]錠の一包化に向けた保存条件の検討、日本薬学会第 139 年会 (2019 年 3 月、千葉)
- 9) 石山萌子、坂森あすか、小嶋ひかる、草野滉平、栗田拓朗、瀧沢裕輔、中島孝則、添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価、日本薬学会第 139 年会 (2019 年 3 月、千葉)
- 10) 橋本実菜、齊藤大悟、朝 優佑、間野綾菜、澤口能一、瀧沢裕輔、栗田 拓朗、佐竹 清、岩田政則、中島孝則、アルギン酸によるウリナスタチン膣坐剤徐放化の検討、日本薬学会第 138 年会、3 月、金沢 (2018)
- 11) 岸本久直、宮崎歌織、村谷美穂、瀧沢裕輔、白坂善之、井上勝央、脂溶性薬物の腸管吸収に与える粘液層の影響、日本薬学会第 136 年会、3 月、横浜 (2016)

3. その他特筆すべき研究業績

[研究費の受け入れ状況]

- 1) 東洋食品研究所研究助成金 (研究代表者)、恒常的な乳製品の摂取による栄養素の消化管吸収変化

の可能性、1,000 千円（2020-2021）

- 2) 中富健康科学振興財団研究助成金（研究代表者）、経口投与製剤の後発品への切り替えおよび併用摂取における溶出性・膜透過性の変化に関する研究、1,500 千円（2018-2019）
- 3) 科学研究費補助金（若手研究）（研究代表者）、細胞内 GTP 量制御を用いた新規細胞膜透過性制御機構の開発、4,030 千円（2018-2020）
- 4) 平成 29 年度日本薬科大学学術研究助成金（研究代表者）、医薬品添加剤の差異が及ぼす医薬品の溶解性・膜透過性・薬効への影響、350 千円（2017）
- 5) 上原記念生命科学財団リサーチフェローシップ、GTP 代謝を標的とした癌の新規診断・創薬基盤技術の開発、4,000 千円（2016）

Ⅱ．教育業績

1．担当授業科目

2020 年度（日本薬科大学）

薬学原書講読Ⅰ（3 年前期）分担 2 コマ

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬物送達法（3 年後期）分担 7 コマ

薬剤系実習（4 年前期）

薬学総合演習Ⅰ（4 年）2 コマ

薬学総合演習Ⅱ（6 年）3 コマ

2019 年度（日本薬科大学）

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬物送達法（3 年後期）分担 7 コマ

薬剤系実習（4 年前期）

薬学総合演習Ⅰ（4 年）2 コマ

薬学総合演習Ⅱ（6 年）3 コマ

2018 年度（日本薬科大学）

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬物送達法（3 年後期）分担 7 コマ

薬剤系実習（4 年前期）

薬学総合演習Ⅰ（4 年）3 コマ

薬学総合演習Ⅱ（6 年）2 コマ

2017 年度（日本薬科大学）

薬学原書講読Ⅰ（3 年前期）分担 2 コマ

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬剤系実習（4 年前期）

薬学総合演習Ⅰ（4 年）3 コマ

薬学総合演習Ⅱ（6年）2コマ

2016年度（米国シンシナティ大学へ研究留学のため担当授業無し）

2. その他特筆すべき教育業績